

科目名	ファイナンス論Ⅰ			担当教員	浅野 礼美子
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	EI2ECA307
期待される学修成果	社会事情に対応する応用力、情報の分析に関する力、				
アクティブ・ラーニングの要素	該当なし				
実務経験	(空白)				
実務経験を生かした授業内容	(空白)				
到達目標及びテーマ	<到達目標> ①ファイナンスの基礎用語を使い、証券の評価について説明できる。 ②金融経済と証券投資に関する情報を収集・分析することができる。 ③学習したことをもとに、資産運用や証券投資について自ら学び理解を深めることができる。 <テーマ> ファイナンス論の基礎を学び、資産運用と証券投資、証券の評価、ポートフォリオの選択、及びリスク管理について考える。				
授業の概要	本講義では、ファイナンス理論に加えて、実践的な資産運用と証券投資の基礎を学びます。その中で、資産形成のあり方について考えるとともに、証券（債券や株式）の評価、ポートフォリオ選択とリスクの分散化といった現代ファイナンス論の基礎を取り上げる予定です。 中学・高校程度の数学知識をもっていることを前提に講義を進めます。数学を苦手とする受講生は、中学・高校程度の数学を復習しておくことが望ましい。 日本経済新聞や金融経済に関するニュースを積極的にみて、金融経済への関心を高めておくこと。				

授業計画	
第1回	ガイダンス
第2回	企業の目標とガバナンス（１）：株式会社の目標
第3回	企業の目標とガバナンス（２）：エージェンシー問題とコーポレート・ガバナンス
第4回	現在価値と将来価値の計算方法
第5回	債券の評価
第6回	普通株式の価値
第7回	純現在価値とその他の投資基準（１）：純現在価値（NPV）ルールと内部収益率（IRR）ルール
第8回	純現在価値とその他の投資基準（２）：純現在価値に基づく投資判断
第9回	リスクとリターン入門（１）：リスクとリターンとは、リスク・プレミアムを測る
第10回	リスクとリターン入門（２）：ポートフォリオのリスクを測る
第11回	リスクとリターン入門（３）：個別の株式がポートフォリオのリスクに与える影響
第12回	ポートフォリオ理論と資本資産価格モデル（１）：収益率のバラツキと分布、2つの株式からなるポートフォリオ
第13回	ポートフォリオ理論と資本資産価格モデル（２）：リスクとリターンの関係、資本資産価格モデル（CAPM）とポートフォリオの選択
第14回	ポートフォリオ理論と資本資産価格モデル（３）：資本資産価格モデル（CAPM）と代替的な理論
第15回	授業全体の総括

事前学修	2時間	教科書の該当箇所を読み、要点を説明できるようにしておくこと。
事後学修	2時間	教科書の講義内容に該当する部分と配布資料を解釈し、小テストを解くこと。
フィードバックの方法	習熟度試験（小テスト）について、採点結果を開示し、その時点までの理解度が確認できるようにフィードバックする。	

補足事項	対面授業を実施する場合、指定された座席に着席してもらう予定です。 各自の責任においてユニバの小テストを期限までに実施・提出してください。
------	---

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
コーポレート・ファイナンス 第10版（上）	リチャード・ブリーリー、スチュワート・マイヤーズ、フランクリン・アレン	日経BP社	978-4-8222-4860-4	なし
参考資料	日本経済新聞。その他、講義の中で適宜指示する。			

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0％	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	100％	習熟度試験（小テスト）80％と平常点（小テストへの取り組み、授業態度、貢献度など）20％の合計